

## 第13回東京外語会ツアー 「悠久の大地エジプトへ」(2009. 3. 11~18)

東京外語会「悠久の大地エジプトへ」  
ツアーのメンバーがエジプト

神奈川雅彦 (F昭36)

今回のエジプト旅行は、小生にとっては初めてのエジプトであり、文明の発祥の地であることに大きな興味を持って参加しました。

3月11日成田空港から今回の団員34名中33名(東京外語会会員及びその家族、友人、大阪外語会会員とその家族)がエジプト航空直行便で出発。15時間掛けてカイロに到着。パリ支部の沼田睦子さん(F44)も合流した。一行の中には、母校の富盛伸夫教授(F45)夫妻も、東京外語国際学術戦略本部代表として、母校グローバルコミュニティの形成のために、カイロ大等に中核的足がかりを得るという任務を持って参加された。

### 第1日目: カイロ

11日のほぼ夜中にカイロのサフィールホテルに到着。サブリー・ハリファさん(通称サブちゃん)という日本語堪能なガイドさんが迎えてくれる。

### 第2日目: 3月12日(木) ツタンカーメンとピラミッド

先ずカイロ市内の考古学博物館から始まった。ウィークデイにもかかわらず世界中からの観光客で大変な混みようである。有名なツタンカーメンの黄金のマスクを始めとする数々の秘宝、歴代の王や王妃のミイラなどを見る。黄金のマスクの美しさと気品は、3000年以上も前のものとは到底思えないほど。



午後はギザのピラミッドを訪れた。ギザには高さ140mという最大のクフ王のピラミッドを始めとする3つのピラミッドと、その近くに座するスフィンクスがあり、エジプト観光の最大のスポットである。クフ王のピラミッドの中に入り、柵の間まで急な狭い階段を上り下りしながら歩いた。

夕方、カイロ外語会支部との交歓会が開かれた。カイロ支部からは、安藤秀志会長(E48 三井物産から出向中)、加藤栄一副会長(E50、住友商事)はじめ、谷生幹事(D平10、NTV)ほか留学生や大阪外語OBも含めて18名が出席された。席上、富盛教授の挨拶及び母校の状況についてのお話、元母校のアラビア語の先生だったサルワ先生、現在の先生ハナン先生、カイロ大学日本語学科長ハムザ先生の挨拶もあり、また新田支部委員長から、上原外語会理事長のメッセージが読み上げられ、熱気に溢れた楽しい交歓会だった。特にハナン先生の「外語大のA科卒業生や学生が現在中東と日本の掛け橋になって、TV業界や翻訳の分野で活躍している」とのスピーチは、我々には大変頼もしく嬉しく聞こえた。



### 第3日目: 3月13日(金) アブシンベルとアスワン

スーダンとの国境に近いアブシンベルに行くために、カイロ空港を朝の5時前に出発。アブシンベルは、「王の中の王」ラムセス2世を祭る巨大な岩窟神殿で、世界遺産に登録されている。高さ21mに達する4体のラムセス2世像がある大神殿と小神殿があり、いずれも砂岩の岩山を彫ったもの。これらの神殿は1960年代にダム建設による水没

から逃れるため、今の場所（元の場所から 100m 弱のところ）に移された。古代エジプトのスケールの大きさに驚きつつ、空路アスワンへ移動、ナイル川クルーズ船に乗船した。思ったより大きなきれいな船で、船内のレストランでの昼食後、バスにてアスワンハイダム（幅 3,600m、高さ 111m の巨大なダム、1970 年完成）や 1902 年完成のアスワンールドダムを見た後、ファルーカ（帆掛け船）に乗ってナイル川をゆっくりと遊覧。途中ファルーカ船上でヌビア人が装飾品売りを始めたので女性達は、大変盛り上がった。遊覧後、小高い丘の中腹にある古代エジプト人の石切り場に横たわる未完成のオペリスク（長さ 41m、重さ 1,150ton 以上）を見学。

#### 第 4 日目：3 月 14 日（土）コム・オンボ、エドフ

アスワンからコム・オンボ（ナイルを 46Km 下った町）へ向けて出航。

ナイル兩岸の美しい風景を堪能しながらの優雅なクルーズで、特に小高い丘の上にあるコム・オンボ神殿にゆっくりと近づいていく眺めは素晴らしい。

午後、エドフに向い、馬車でホルス神殿へ向った。ハヤブサの神ホルスを祭る神殿で、中庭のホルス像はエジプトで最も美しいと言われている。

夕方ルクソールに向う途中、エスナの水門（水差調整式）を通る。

ルクソールは古代エジプトの首都テーベだったところである。夜はこの地方の民族衣装であるガラベヤという衣装を借り、それに合わせた化粧をしてもらって、同船のイギリス人グループ、イタリア人グループと一緒にサブちゃん主催のゲームパーティーで盛り上がった。

#### 第 5 日目：3 月 15 日（日）ルクソール

西側の王家の谷には、王や王妃などの墓場、葬祭殿が集まっている。まずツタンカーメンの墓に入り、19 歳で夭折した王のミイラに出会う。発掘された財宝などがカイロの考古学博物館に移してあるためか簡素な感じがした。

午後は、メムノンの巨像（国が最も繁栄した頃の王の像）を見てから、ファラオ史上、エジプトを統治した唯一の女王ハトシェプストが建造した

巨大で美しい葬祭殿を見学。ここは 10 年程前葬祭殿の背後にそびえる崖からのテロ銃撃があり日本人の観光客が亡くなったところ。

夕食後、カルナック神殿にある聖なる池付近での「音と光のショー」に出かけたり、船に戻ってからは、いくつかのアトラクションで楽しんだ。

#### 第 6 日目：3 月 16 日（月）

カルナック神殿を見学。134 本の巨大な柱が立つ大列柱室には圧倒された。その十メートル以上の高さの梁から大石が落ちてくるというアガサクリスティの小説(映画)を思い出させる現場である。この神殿は、古代エジプト期のラムセス 2 世はじめ歴代の王が建築を重ねた雄大なものである。昼食は名物ハト料理を賞味。

午後は、カルナック神殿の副殿とされるルクソール神殿を訪問した。ラムセス 2 世がここに建立したオペリスク対の 2 本のうちの 1 本がナポレオンによりフランスに運ばれ現在パリのコンコルド広場にある。

夕方、空路ふたたびカイロへ。

#### 第 7 日目：3 月 17 日（火）カイロ

午前中は、サッカーを訪問、野外博物館にラムセス 2 世の巨像が横たわるメンフィス、次にダハシュールに行き、階段式の最古のピラミッドなどを見た。

午後は、ムハンマド・アリ王朝の 1857 年に完成したオスマン様式の巨大なモスクを訪問。モスクがある雄大な城砦は 12 世紀の王が十字軍を阻止するために作ったものという。

夕方、カイロからエジプト航空直行便にて発ち 3 月 18 日（水）午後 1 時前に無事成田空港に着いた。帰りの飛行時間は、偏西風のお陰で（かなり揺れたが）11 時間あまり、往きの 15 時間と比べて大変短く感じた。

初めてのエジプト、その空間的・時間的スケールの大きさに圧倒されつつ、BON VOYAGE を楽しみました。

この企画を立ててくださった石原さんはじめ、新田委員長、田中団長、鈴木副団長以下幹部の皆様方に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。